

すべての子どもが保育を受けられ、 保護者が働くことを選択できる社会

平成29年6月2日、厚生労働省から発表された人口動態統計により、平成28年に生まれた子どもの数が1,899万人から統計を取り始めて以来初めて1,000万人を割り込んだことが明らかにされた。他方、文部科学省による「特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査結果」によれば、医療的ケアが必要な子どもの数が平成23年5月の段階では1万9303名であったのが平成25年5月では2万5175名となり、2年間で6000名ほど増加していることもすでに報道されている。また、平成28年厚生労働科学研究田村班の中間報告によれば、平成17年と比較して医療的ケア児の数が約2倍にも増加しているという指摘もなされている。

我が国の新生児医療技術の発達には目を見張るものがあり、従前、命を落とさざるを得なかつた新生児を救うことができるようになつた。しかしその反面、保育・療育を受けられない医療的ケア児やその家族の苦悩が置き去りにされてきた。口から物を食べられない子どもにはチューブを使ってお腹に穴を開け、また、鼻を通じて直接的に栄養を送る「経管栄養」がなされ、ま

た、呼吸が困難な場合には気管切開をし、カーネー(通気用の管)を通じて呼吸が維持され、さらに、痰が気管に詰まってしまう子どもにはたん吸引が日々続けられている。しかし、数多くの医療的ケア児は、未就学児の時期、認知的の段階では1万9303名であったのが平成25年5月では2万5175名となり、2年間で6000名ほど増加していることもすでに報道されている。また、平成28年厚生労働科学研究田村班の中間報告によれば、平成17年と比較して医療的ケア児の数が約2倍にも増加しているという指摘もなされている。

我が国の新生児医療技術の発達により命をつなげることができた新生児の大多数が育を目的とする児童発達支援事業所はあるものの、医療的ケア児が通所できる事業所は極めて少なかつた。このように医療的ケア児を預け入れてくれる先がないことから、24時間365日にわたって両親などの家族が医療的ケア児の面倒を見なければならぬ状況が続いてきた。新生児出生前までは共働きであつた夫婦が、出生後、妻が仕事を辞めて24時間ずっと子どもにつきっきりにならざるを得ず、その妻をサポートする夫も含め、その身体的精神的負担は大きく、経済的困窮に陥つてしまつている現実が我々の目の前に数多くある。

医療的ケア児をもつ家庭10人のうち9人が充分に睡眠も取っていないと

加えて、未就学児である障害児の療育を目的とする児童発達支援事業所はあるものの、医療的ケア児が通所できる事業所は極めて少なかつた。このように医療的ケア児を預け入れてくれる先がないことから、24時間365日にわたって両親などの家族が医療的ケア児の面倒を見なければならない状況が続いてきた。新生児出生前までは共働きであつた夫婦が、出生後、妻が仕事を辞めて24時間ずっと子どもにつきっきりにならざるを得ず、その妻をサポートする夫も含め、その身体的精神的負担は大きく、経済的困窮に陥つてしまつている現実が我々の目の前に数多くある。

新生児医療の発達により命をつなげることができた新生児の大多数が保育園や幼稚園に通園できず、親から離れて社会性を身につけていくことが難しい状況にある。このような問題を解決するために障害児保育園へ入園が注目されているが、さらに問題は、障害児訪問保育アニーなどの活動が注目されているが、さらに問題は、年齢に達しても、通常の小学校や特別支援学校の医療的ケア体制が不十分なことで、親が同伴しなければならない状況が続いている。

先日、NHKのハートネットTVという番組を観ることができたが、母親が児童の登校から下校までの間、たん吸引などの必要な医療的ケアができるよう別室で待機している姿が映し出されていた。母親は経済的負担など

によって初めて「医療的ケア児」という文言が法律に明記された。医療的ケア児が適切に支援を受けられるよう、自治体が保健・医療・福祉等の連携促進に努める」とも規定され、「医療的ケア児保育支援モデル事業」として、まずは就学前の医療的ケア児が保育所等に受け入れ可能となる体制を整備することが目指されている。札幌市が平成30年度のモデル事業実施自治体に名乗りを上げることを心待ちにしたい。